

令和3年度 さいたま市立土屋中学校 学校関係者評価書

さいたま市立土屋中学校

学校関係者評価委員長 細 沼 幸 央 

1 学校関係者評価の実施体制

(1) 構成人数

12名

(2) 実施回数

2回（うち1回は書面による）

2 学校関係者評価（学校関係者評価委員の意見等）

- ・学校では、重視しているアンケート質問項目となる「学校が楽しい」のアンケート結果が良好な傾向であることを受けて、コロナ禍でありながら、教職員が英知を結集し、教育活動に工夫を凝らしている結果であると捉えている。また、「私は、清掃に取り組んでいる」の質問項目のアンケート結果について、小学校において「黙々清掃」に取り組み、小学校においても中学校同様の良好な結果であることに小中一貫教育を進めている成果を感じる。
- ・自己肯定感の指標の一つ「子ども一人ひとりを大切にし、認めている」という項目で、令和元年度より令和3年度の方が肯定的な回答は、保護者アンケート結果で増加し、生徒アンケートでも「当てはまらない」がかなり少ない結果である。これは学校全体の個人を認め合う雰囲気があるような回答を導き出していると感じた。
- ・このコロナ禍にあって、子どもたちが互いに認め合い、助け合えること、自己肯定感を育てることが大切なのではないかと思う。中学生という発達段階では、なんでも話し合い、互いを認め合うことで、将来にわたって必要となる「よい判断力」を身につけられるのではないか。
- ・アンケート結果は、それぞれの立場のご意見があることが分かって有意義だった。学校内のことは分からないことが多いので、情報の発信を期待する。
- ・コロナ禍において教職員・生徒・保護者・地域、各々の制約がある中、模索し、考え、迷い、努力している中での結果だと感じた。
- ・アンケート結果で全体の傾向を把握することは大切であるが、個別のケースについて丁寧にフォローするようにしてもらいたい。
- ・保護者アンケートの「子どもたちにとって魅力的な学校行事が実施されている」の項目で、肯定的な回答が下がっていることから、コロナ禍で行事が中止になった影響と思われるが、保護者も楽しみにしているものなので、何か工夫が必要であると思う。
- ・学校・家庭・地域が一体になって生徒たちの「夢に向かって」を考え、体感できる場が必要であり、PTAと連携してバザーを開催し、協力して取り組むことにより、目標を達成することできると思う。

学校関係者評価を受けた学校の対応

- ・子どもたち（児童生徒）の自己肯定感、自己有用感を高めることが、どの発達段階においてもとても重要であることは共通した認識であると考えます。小学校との効果的な教育活動が展開できるような取組、公民館を核とした地域とのつながりの強化、PTAと連携したバザーの実施、地域の力を取り入れた子どもたちへの支援体制の強化、青少年育成会や自治会と密に情報交換して子どもたちの活躍する機会の確保や充実など、中学校の枠を越えて子どもたちにより豊かな学びを提供していくよう努めたい。
- ・「学校で学び、家庭で育てられ、地域で見守る」を基本的な役割としながら、子どもたちの挨拶の励行など、土屋中学校の子どもたちのよき伝統を守るため、引き続き取り組んでいきたい。

さいたま市立土屋中学校長 田 村 浩 司 